

# 名戸ヶ谷ビオトープを育てる会だより

第16号

2005年12月1日

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会発行

<http://nadogaya-biotope.org/index.html>

発行責任者： 篠崎 将 Tel/Fax: 04-7173-6353

## 豪華な手作り料理で収穫祭



10月16日(日)、天気予報に一喜一憂しながら朝を迎えました。雨模様のため早出してくれたビオトープ会員と共に「ブルーシート」を張り渡し、手際よく会場造り。今年は祝宴開始の11時を目指して作業を分担することにし、参加諸氏がテキパキと手をすすめ、準備も整い、篠崎会長の挨拶をもって開宴となりました。

メニューは増田さん担当のお赤飯・お餅（アンコ・おろし・納豆・黄な粉）、影山夫人手作りのイナゴの佃煮・ザリガニのから揚げ、才川さん提供の燻製豚肉・

不耕起米おにぎり、恒例川田さん特技のトン汁、高田さん担当のバーベキュー（ヤキトリ、つくね、野菜）など、盛りだくさんの品々でした。豪華な料理とアルコールを胃袋に収めながら、歓談も盛り上がり、午後一時すぎに終宴となりました。

後片付けは「ハプニング」もありましたが、みなさんの協力により手早く終わることができました。また、今回は増田夫妻の奮闘により、お土産として、沢山のつくたての餅、お赤飯を26人の参加者全員に配ることができました。（窪田孝志）



不耕起水田の稲の脱穀の日に、春山夫人、森田さんとビオトープの畦に飛び交うイナゴを捕り、一晚布袋の中に生かしておいて、翌日熱湯で茹で、箆に広げ、1～2日干し、羽と足を取り除き、厚手の鍋で乾煎りした後に砂糖、醤油、味醂で味付けしました。最後に「かぼす」で味付けをしました。（影山道子）

豪華な料理に驚きました。雰囲気もすばらしいですね。つくたてのお餅や不耕起米のオムスビ、それにイナゴの佃煮までお土産にいただきました。帰路、友人宅に寄り、お餅を味わってもらいましたが、本当に美味しいと驚いていました。イナゴの佃煮は父の好物です。本当にありがとうございました。（名戸小5年担任 椰野先生）

## かしわ環境ステーション記念オープンイベント

平成17年10月2日に増尾の第二清掃工場にある「かしわ環境ステーション」に於いてオープン記念イベントが開催されました。鬼頭東大教授による基調講演「環境保全と市民協働」の他、手賀中学、大堀川の水辺をきれいにする会による活動報告、そして柏市内の環境系の市民団体、小中学校、大学、企業、行政関係によるパネル展示が開催され、名戸ヶ谷ビオトープを育てる会もパネル展示を行いました。「かしわ環境ステーション」は柏市内の環境保全に関する理解を深め、様々な主体が連携し、協働して環境保全の活動を促進することを目的とした施設です。オープン記念イベントには参加団体の関係者を含め200名近い来場者があり、今後はステーションを中心に市民団体だけでなく学校などと連携したり、さまざまな展開が期待されます（松清智洋）。



# 秋の生きもの観察会 10月10日

この日はあいにくの雨模様となりました。そのため、子供たちの集まりは悪く、わずかに二人。大人は主催者側を含めて13名でした。少し肌寒い日だったので、生きものたちの動きが鈍く、なかなか見つけにくい状況でした。それを補うために裏方の努力もあって、予想以上の生きものを捕らえることができ、講師の柄澤先生のユーモアあふれる面白い話を聞くことができました。

イナゴの料理の仕方、水中の生きものを網で上手に捕らえる方法、クモが巣の中で下向きに待っている理由、などなど。二人の子供も目を輝かせて聞き入っていました。イネ科植物のオヒシバを使った草相撲の遊び方の時には、大人たちが童心に帰った様子で夢中になっていました。



ビオトープを一回りした後は、物置小屋の前に座って、柄澤先生から、植物が種子をどのようにして運ぶのか、を学びました。先生が採取した様々な種子の一つ一つについてルーペで観察しながら、特有の運び方を聞きました。オナモミの実とはゲを使って運ばれますが、その仕組みを応用したのがマジックテープであることなど、楽しい話が次々と出て、子供のみならず大人たちも引き込まれる様子でした。

今回、名戸小以外に八小の生徒さんが参加されましたが、これからは観察会の案内を八小にもする必要を感じました。

(佐々木光正)

## 不耕起稲作部会

**お米作りも10月に入ると来年の準備作業です。**

**竹材の手配** : 近くの農家(木村さん)の好意で間伐した竹を頂きました。枝落とし・リヤカーで運搬・保管棚作り・保管。竹材は広く利用できますし、木村さんはPTA会長の経験もあり、今後ともご相談・ご指導をお願いしました。



**稲藁・米糠散布** : 不耕起栽培でお米の栄養源は稲穂と米糠です。森林の栄養源が落ち葉であると同様に、獲れた稲藁・糠を散布し、来年の豊作を祈願しました。

**畦・溝の補修** : 特にザリガニが開ける穴対策で、0.03mmの黒色ビニールをテスト使用しました。これは岩澤先生の助言ですが、どうやら有効のようで、期待しています。(才川寿磨)



## 名戸ヶ谷ビオトープを育てる会年次総会

日時: 2006年1月22日(日) 午前10時~12時

場所: かしわ環境ステーション(南部第二清掃工場内)中会議室(3F)  
逆井駅よりジャンボタクシー(9人乗り)あり。

# ビオトープの生きもの



## ダイサギ サギ科

全長白色でくちばしと首がひとときわ長い。川や池、干潟などをゆっくり歩いてエサを探す。長い脚は、体を濡らさず水辺を歩きまわるのに適している。ビオトープではドジョウやアメリカザリガニを食べている。夜間は良く繁った雑木林などで、コサギやゴイサギ等と集団で生活している。ヒナは「ジェ、ジェ」と絶えず鳴いているが、成鳥はほとんど鳴かない。千葉県では通年観察出来る。



## オナガ カラス科

農村や市街地など人里とその近くに生息する。地面や湿地におりることもある。昆虫や木の実を食べるほか、鳥の卵などもとる。10数羽以上が群れで行動することが多い。長い尾を引きずるように飛ぶ。本州東部では留鳥として分布し、繁殖する。繁殖期には数つがいが集まって、比較的近いところにまとまって巣をつくる。関東地方から長野県にかけて多い。5～7月の繁殖期には「ビリビリ、ビリビリ」という

優しい声で鳴くが、通常は「ゲー」とか「ゲイ」と濁った声で鳴く。 柏市の鳥。

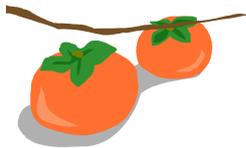
(篠崎 将)

## 手賀沼ふれあいウォーク 2005

### ～環境ビレッジに出展参加

11月27日、例年開催されている手賀沼ふれあいウォークが開催されました。当日は天候にも恵まれ、風もなく小春日和となり、絶好のウォーキング日和でした。沼南町との合併後初めてのウォークで、昨年より多くの方が参加しているように見受けられました。ビオトープのブースには親子づれやご夫婦、年配の方々と、多彩な顔ぶれが訪れました。

ビオトープを知らない人はなく、何度か行ったことがある、という方が増えてきました。貴重な自然なので是非保全してください、と声をかけてくれる人もいました。市民の期待に応えるよう、豊かな自然を残したいものです。当日は説明役として才川さん、取材役として春山(秀)さんに参加していただきました。(篠崎 将)



編集後記： 収穫祭も無事に終えたビオトープは冬枯れの風景。しかし、植物は霜の下で春の芽吹きに備え、生きものは冷たい水の中で春を待ち、田圃は稲藁や米糠と共に呼吸し、豊かな実りへの努力を怠ることがない。それに応えて、各部会でも、来年への準備作業がひっそりと行われています。4年目を迎えるビオトープ。お互いの今後への期待や構想を年次総会に持ち寄りましょう。広報編集部(春山)

# ふれあいの集いでビオトープ展も

11月19日(土)。名戸ヶ谷小学校校庭で行われた「ふれあいの集い」には早朝から5-6年生の企画「収穫祭」の手伝いでビオトープ会員15名が参加。秋晴れの下でにぎやかに餅つきが行われました。黄な粉餅、餡、醤油味・・・スカーフとエプロン姿の子どもたちのグループが先生方やお母さんたちと一緒に、つきたての餅を小さく千切ってトレイに並べ、待ち受けている友だちやお母さん、お父さんたちに嬉しそうに手渡していました。黄な粉もちが大人気のような様子でした。不耕起米のオムスビも並び、近くではビオトープ会員に励まされながら、子どもたちが腰をふらつかせ餅つきに挑戦していました。



一方、近くのグラウンドでは、青いビニールシートの上で、5-6年生による正月飾り作りが行われていました。ビオトープ会員から学んだ正月飾り作りを今度は学校の友だちや親たちに披露しよう、との企画です。

また、今回初めて、理科室では、5年生による学習展示「ビオトープ・米作り・もちの作り方」展が行われていました。学習したことに、自分たちで調べた図表・地図、感想を添えて展示したものです。部屋を訪れた人たちに一生懸命解説する姿が印象的でした。(広報編集部)

## ひとくち感想

- 配るのも楽しい。食べても美味しい。最高です(5年、瀧君)
- こういうのはまるっきり初めて。つきたての餅はホカホカして美味しい(5年、大竹さん)
- 杵が重かったけれど楽しかった。2回ついた(5年、荒木剛君)
- 見てると楽そうだけど、自分でやってみると疲れて腕が上がらなくなる。筋トレになる(OB 小池・木村君)
- 形はちいちゃかったけれど、上手に編めました(正月飾り:5年、近藤・赤瀬さん)
- 大変だったけど、調べて初めてわかった。調べてよかった(展示:5年、瀧・木村・荒木・ボン君)

## 輪飾り作り体験学習を手伝って

11月9日(水)の午後1:50分から約1時間、飼育舎前の校庭にブルーシートを敷き、晴れた秋空の下で行われた5~6年生110人ほどの正月輪飾り作り体験学習のお手伝いをしました。榎野先生の発声で始まり、最初に各自が使う藁の襟の部分を取り除いて束にし、水に濡らし、木槌で打って柔らかくし、各自藁を6本用意し、両手のひらに3本ずつ持ち、根元を揃え、足親指と人指し指の間にしっかり固定し、両手のひらを滑らせながら縄を纏う見本を見せた後、各自縄纏いを始めました。6名のビオトープ会員が児童たちの間に入り、直に指導しました。最初は戸惑っていた児童たちも、終わり頃には幾人かは立派に纏えるようになりました。最後に半紙を使って飾るシデ「紙垂」の切り方をやって見せ、続いて児童たちにもやらせ、纏った輪飾りに飾って完成させました。(影山賢三)



## ひとくち感想

- ちょっと大変だったけど楽しかった(実行委員長、6年、片山純一)
- コツを掴んだら楽しくできました(5年、酒井百合子)
- 苦労したけど最終的にいいものができてよかった(5年、君玲奈)
- コツをつかんだらすごく簡単だった(5年、原山智子)